



—特集— 豊かな育ちを支える 杉戸町の学校給食

問合せ 学校給食センター ☎ (36) 7050

東中学校

杉戸第二小学校

●杉戸町の学校給食

日本での学校給食の始まりは、明治22年に山形県の小学校で生活が苦しい家庭の子どもに昼食を提供したことから言われています。その後、昭和29年に学校給食法が制定され、学校給食は単なる栄養補給ではなく、「生きた教材」として子どもたちの教育に生かされてきました。

杉戸町の学校給食は、昭和49年9月に給食を開始しました。平成13年4月に現在の給食センターから給食の提供を開始し、現在は町内の小・中学校9校へ、3,149食（令和5年5月1日現在）を提供しています。

●学校給食を通して食育へ

近年では、偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化しています。

このような現状から、平成17年に食育基本法が、平成18年に食育推進基本計画が制定され、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校においても積極的に食育に取り組んでいくことが重要となっています。

杉戸町では、学校給食を通じて、食に関する正しい知識を学ぶだけでなく、食材を育てる生産者がいることなど、様々な取組を進めています。



令和5年12月に杉戸町産の大根とさつまいもを使用した豚汁を提供しました。

●給食からはじまる 食の基礎づくり



坂巻栄養士

学校給食は、児童・生徒に栄養や食事について考えてもらうための生きた教材です。学校給食から学んだことが、今後食材を選んだり、調理したりする際に、自身の健康にとって望ましいものであるかを判断する基準になると考えています。

また、食べ物や栄養について学び、豊かな食生活につなげていく「食育」を進める中で栄養面の知識だけでなく、食が多量の人との協力の上に成り立つことや誰かと一緒に食べる楽しさを知ることも重要なことです。

子どもの好き嫌いは、いつの時代も、大人を悩ませる問題です。成長期にある子どもは、全ての栄養素を十分にとることが大切です。必要量を満たしつつ、様々な味や食材に出会えるよう、日々おいしい給食づくりに取り組んでいます。

子どもの頃に苦手だった食べ物や大人になっただけで食べられるようになった経験を持つ方も多いと思います。これは成長に伴い味覚が変化することや食経験を重ねることが関係しています。そのため、子どもたちには、苦手なものもいつかは好きになるかもしれないことを伝えていきます。

地場産の食材を使うことも、心がけています。日々の暮らしの中にある田んぼや畑で育てられた食材が給食に使われていることや、生産者の方が身近にいることは、子どもたちが杉戸町への理解を深め愛着をもつきっかけとなると考えています。

●地場産品の活用を進めています

季節によって杉戸町産の食材を給食に積極的に取り入れています。給食では、杉戸町産のお米「彩のきずな」を100%使用し、おいしいご飯を提供しています。また、長ねぎ、大根、きゅうり、さつまいもなど、地元生産者による野菜を使用しています。



●学校給食の試食会

日時 5月2日(木) 午前11時30分から
場所 学校給食センター2階
対象 町内に在住または在勤の方
定員 15人(先着順)
参加費 339円(289円+物価高騰分50円)
申込 3月29日(金)まで
電話で学校給食センターまで
☎ 36-7050

●安心安全・おいしさを心がけています

給食を提供するうえで、何よりも大切なことは食物アレルギー対応を含め、安心・安全を確保することです。調理場では、衛生管理を徹底し、また食材の検品を細かく行い、野菜は3回以上洗うなど、異物が混入しないようにしています。子どもたちに、おいしいと思ってもらえる給食を心がけています。



給食の調理風景

●学校給食に支援をしています

物価高騰や原油価格の高騰に伴う輸送費などの値上げの影響により、給食に使用する食材価格が大幅に上昇しています。そのような中でも、児童・生徒の物価高騰分は町から支援しています。

令和5年度(予算) 学校給食費について

小学校 639円/食	
保護者負担分 248円	物価高騰分 25円
人件費・設備維持分 366円	
町負担分 391円	
中学校 680円/食	
保護者負担分 289円	物価高騰分 25円
人件費・設備維持分 366円	
町負担分 391円	

令和5年11月分からは、多子世帯の第3子以降の児童・生徒の学校給食費を補助しています。

